

平成30年度 学校自己評価表(最終)

岩美町立岩美南小学校

教育方針

- ◆磨こう自分(個別の知識・技能の向上)
自分の力を信じ、学習や運動、生活など、基礎・基本をしっかり身に付けている子ども
・基礎的、基本的な知識・技能
・凡事徹底(あいさつ、返事、くつそろえ、もくもくそうじ)
・語彙力、読書活動
・健康、体力づくり
- ◆仲間と共に(思考力・判断力・表現力等の向上)
友達と力を合わせ、学習したことを使って、主体的・対話的で深い学びをする子ども
・自分で考え、表現する
・学び合い
・学校が楽しいと感じられる学級・学習集団
・縦割り班を活用した主体的活動
- ◆未来に向かって(学びに向かう力・人間性等の育成)
学習したことを社会と結び付けたり、社会に生かそうとする子ども
・地域の「ヒト・モノ・コト」とのつながりを重視した体験活動
・持続可能なコミュニティをイメージできる児童づくりを努め、ふるさとを誇りに思う心を育てる。
・ESDの視点で教育活動を捉え直し、共通の目的を持つことでさらなる充実を図る
・新学習指導要領の実施に向けた教育内容の改善

教育活動の重点

- ◆磨こう自分(個別の知識・技能の向上)
・南小版「学習ルール」を活用し、保・小・中との連携を図りながら、学年に応じた学習規律の定着を図る。
・学年に応じた学習時間、内容を設定して、家庭学習の充実を図る。(予習、復習、自主学習)
・「もくもく掃除」の充実を図る。
・「朝来市モデル」を参考に、わかりやすい授業づくりに努める。(教室環境、ICT、板書、授業の流れ等)
・県診断テストや各種学力テスト等の数値を具体的な指標とし、学力向上のための取組の改善に生かす。
- ◆仲間と共に(思考力・判断力・表現力等の向上)
・学習の見通しを持ち、課題解決に向けて主体的に取り組めるように努める。
・タブレット端末やパソコンを用いた調べ学習や表現活動を推進する。
・ピクトグラムを用いて、主体的・対話的で深い学びを推進する。
・縦割り班活動において、話し合い活動や相互評価を取り入れ、主体的な活動を促すとともに、豊かな人間関係作りを努める。
- ◆未来に向かって(学びに向かう力・人間性等の育成)
・ネットやテレビ、ゲーム等の1日2時間以内を徹底する。(早寝の習慣)
・地域社会とのつながりを意識した学習展開や学校行事に努める。(米、梨、野菜、歌)
・特別の教科道徳について研修し、道徳ノートの活用を図る。
・ESDの視点を取り入れ、教科横断的な捉え方に努める。
・外部講師による校内研修や授業研究会(1人1年1回以上)、研究会参加等により、授業力向上を図る。
・コミュニティ・スクールについての校内研修に努める。

教育活動の重点	めざす児童像	重点目標	努力事項・具体的方策	到達目標	評価基準	評価(A:80%以上 B:79~60% C:59~40% D:39%以下)						総合評価	成果と課題	来年度に向けての改善策						
						児童		保護者		教職員										
						アンケート項目	割合 評価	アンケート項目	割合 評価	アンケート項目	割合 評価									
磨こう自分(個別の知識・技能の向上)	『磨こう自分』自分の力を信じ、学習や運動、生活など、基礎・基本をしっかり身に付けている子ども ○自分で考え、表現する ○凡事徹底(あいさつ、返事、くつそろえ、もくもくそうじ) ○語彙力、読書活動 ○健康・体力づくり	学習ルールの定着	南小版「学習ルール」を活用し、保・小・中の連携を図りながら、学年に応じた学習規律の定着を図る。 教科書・ノート・筆箱の位置を守り、正しい姿勢で書くことができる。	友達や先生の話を最後まで聞くことができる。	話を最後まで聞くことができる。(児・保・教80%)	友達や先生の話を最後まで聞くことができた。	91	A	お子さまは、話す人を見て最後まで話を聴いている。	75	B	児童は、話す人を見て最後まで話を聴いている。(聴き名人)	95	A	○集会後の振り返り(内容などの確認)を継続して行った。 ○相手を大事にするという意味でも相手を見て聴くことの指導を継続した。 ○話す全体像が分かるように話す。簡潔に話す。 △最後まで聞かなくて動く児童が見られる。	・できなかったら、やり直して最後まで聴いてから動くように指導を重ねていく。				
							94	A		80	A		71	B						
							88	B		71	B		65	B			○ピタピントンの意識が育ってきた。 ○タブレット端末で姿勢をとることで、自分の姿をみることができ少し改善につながった。 △声かけの時はできるが、それ以外となとできていない。 △持続が難しい。特に書く時の姿勢を正しくするのは難しい。			
							89	A		82	A		47	C						
		家庭学習の充実	学年に応じた学習時間、内容を設定して、家庭学習の充実を図る。	1~3年生は30分以上、4年生以上は10分×学年以上の家庭学習をすることができる。	学年に応じた時間、内容で家庭学習をすることができる。(児・保・教80%)	家庭学習の時間を守って、学習することができた。	90	A	お子さまは、目安の時間を守って家庭学習に取り組んでいる。	61	B	学校は、児童に家庭学習の時間を守って取り組むよう指導した。	85	A	○9月参観日全体会にて保護者へ啓発を行った。それを受けて自分から進んで自主学習に取り組もうと家庭で話し合っている児童もいる。 ○2学期以降時間を書いて家庭学習に取り組むようにした。 △時間を意識できるようになった。質の向上が課題となってくる。	・時間に加えて、質についての向上を研究していく。				
							93	A		70	B		87	A						
		基本的生活習慣の定着	『もくもく掃除』の定着を図る。	掃除時間、黙って隅々まで掃除することができる。	黙って隅々まで掃除することができる。(児・教80%)	そうじ時間は、だまってすみずみまでそうじをすることができた。	78	B	児童は、そうじ時間、だまって隅々まで掃除をしている。				85	A	○それぞれの場所をまわりながら、掃除の仕方の指導を行った。 △「隅々まで」と「時間いっぱい」ができていない。 △静かにしているが、休憩のあとなどで疲れてやったりふりをしていたり始まる時間が守れていなかったりしている。	・「もくもく掃除」の歌を合図に掃除を始めるように指導する。具体的なことは来年度に提案する。 ・委員会のもくもく掃除賞における活動は児童の振り返りではなく教員が評価をしている。				
							80	A									69	B		
		学習のUD化	『朝来市モデル』を参考に、わかりやすい授業づくりに努める。	発言スタイル(グー・チョキ・パー)を意識して発表することができる。	発言スタイル(グー・チョキ・パー)を意識して発表することができる。(児・教80%)	「グー」「チョキ」「パー」を使い分けて発表することができた。	86	A	児童は発言スタイル(グー・チョキ・パー)を意識して発表している。				71	B	○「グー」を出す児童は難しいが、「チョキ」においては意識して挙げている。 △発表したくない児童が多い中「グー・チョキ・パー」まではハードルが高い。 △教員が発言スタイルを生かすのが難しい。発問による。	・型にこだわると目的が薄れることや児童実態から、教科では強制しないが活用は継続していく。(思考を深める手段として) ・特に学級会で活用できるようにしたい。そのために教員がグー・チョキの仕分けをしていく。				
							62	B									77	B		
仲間と共に(思考力・判断力・表現力等の向上)	『仲間とともに』 友達と力を合わせ、学習したことを使って、主体的・対話的で深い学びをする子ども ○自分で考え、表現する	主体的な活動	学習の見通しを持ち、課題解決に向けて主体的に取り組めるように努める。	学習の見通しを持って積極的に取り組むことができる。	学習の見通しを持って積極的に学習に取り組むことができる。(児・教80%)	「今ここ」をたしかめながら学習に取り組むことができた。	94	A	児童は、単元や1単位時間の見通しをもって学習に取り組んでいる。				94	A	○「めあて」を児童に提示していくことがよかった。 ○「今ここ」は、単元では効果的であった。 ○外国語活動では活動が多いので、「今ここ」があり児童にも視覚的に理解できてよかった。 △「今ここ」は1時間単位は難しいことがあった。特に算数科では、進み具合の個人差があつて困った。	・1単位時間の流れを視覚的に示す「今ここ」はできれば活用することとし、「今ここ」を動かすことはしない。 ・「今ここ」は、単元単位で示す。				
							95	A											94	A
							88	A												
							91	A												
		ICTを活用した魅力ある授業づくり	タブレット端末やパソコンを用いた調べ学習や表現活動を推進する。	タブレット端末やパソコンを用いて、調べたり表現したりできる。	タブレット端末やパソコンを用いて、調べ学習や表現活動を行っている。(児・教80%)	iPadやパソコンを使って調べ学習をすることができる。	71	B	先生は、パソコンやタブレットなどICTを活用した授業づくりに努めている。	89	A	児童は、PCやタブレットを活用して調べ学習や表現活動を行っている。	65	B	○あつて当たり前のように日々活用している。 ○総合的な学習の時間においてPPを作成させた。 ○算数科においてフラッシュカードのように活用している。 ○百人一首クラブで腕をあげるためのアプリを活用している。 ○体育や音楽等々や学習発表会など自分たちの姿をみるために活用した。 ○探検に行く前や生活科などで活用できた。 △場所によっては活用が難しい。スクリーンやプロジェクターがない。	・教員が意識して活用していく。そして、活用したことを年計に残していく。 ・iPadだけではなく、キーボードが打てるようにパソコン使用も大切にしたい。 ・プログラミング教育の実践に向けて、研修を重ねていかないといいない。				
							82	A									50	C		

